

和歌山は33位

都道府県対抗男子駅伝

全国都道府県対抗駅伝(日本陸連主催)の男子は18日、広島市の平和記念公園前を発着点に開かれ、和歌山県は2時間24分27秒で33位だった。昨年と比べて順位を三つ落とした。(6面に関係記事)

コースは7区間48キロ。紀南関係では、田辺工業高校2年の阪口俊平君が5区(8・5キロ)を26分23秒(区間順位40位)で走り、35番目にたすきををつないだ。みなべ町出身で愛知製鋼所所属の中村悠二さんは最長の7区(13キロ)を39分01秒(同29位)で走った。2人以外の県代表の記録は次の通り(チーム順位)。

- 1区(7キロ) 橋詰大慧(和歌山北高3年) 20分25秒(13位)▽2区(9キロ) 樋瀬光希(野上中3年) 9分08秒(18位)▽3区(8・5キロ) 瀧滝大記(中央学院大3年) 25分03秒(24位)▽4区(5キロ) 有松憧(桐蔭高1年) 15分23秒(32位)▽5区(3キロ) 坂口博基(荒川中3年) 9分04秒(35位)
- 優勝は埼玉県で、記録は2時間19分14秒だった。

昭和21年7月10日第3種郵便物認可

埼玉初V、2位に宮城

都道府県男子駅伝

第20回全国都道府県対抗男子駅伝は18日、広島市平和記念公園前発着の7区間、48キロで行われ、前回2位の埼玉が歴代3位の好記録となる2時間19分14秒で初優勝した。宮城が24秒差で過去最高の2位に入り、東京が3位。優勝候補に挙がっていた地元広島は13位、前回優勝の長野は19位だった。

1区6位の埼玉は、2区の橋本龍(川角中)4区の小山直城(松山高)が区間賞を獲得。7区の服部翔大(ホンダ)らも手堅く走った。宮城はアンカーの村山謙太(駒大)が追い上げたものの及ばなかった。

中高生が優勝に貢献

昨年2位の悔しさを晴らす

初優勝だ。埼玉のアンカーを2年連続で任された服部は「ゴールテープを切れて気持ちいい。記念すべき20回目優勝できたことを誇りに思う」と感慨深げだった。箱根駅伝で優勝経験のある設楽悠と服部が軸のチームで、中高生が大きく貢献した。特に、2位に順位を下げた設楽悠からたすきを受けた4区

(5キロ)の小山は圧巻だった。熊本、静岡との並走から残り約1キロでスパート。2位熊本に15秒の差をつける区間賞で栄冠への流れをつくった。

小山や中学生で2区区間賞の橋本らにとって設楽悠と服部は憧れの存在。チームに安心感を与えていた。北村監督は「リーダーシップをとってくれてまとまった。助言もしてくれた」と語った。

主軸の2人が高校3年生だった6年前に「チーム埼玉」として中高生の強化が始まり、候補選手を集めて合宿などをするようになった。その努力が実を結び、頂点の座をつかんだ。



第20回全国男子駅伝

全国都道府県対抗男子駅伝で初優勝を決めた埼玉のアンカー・服部翔大(広島・平和記念公園で)